

nakatani

Nの挑戦。

中谷機工会社案内



創業の精神を継承し、次の百年へ。「nakatani」の挑戦が始まっています。

NEED 03
社会の根幹に
職人の魂を込めて！

NEWS 05
話題の中心に
NAKATANIの軌跡あり！

NOW 07
命の現場、
研究の現場に継承の技！

NETWORK 09
越境する
ツクル、ハコブ、マモル！

私たちの先にあるもの。

1902(明治35)年、中谷グループ創業者 中谷庄之助が大阪港にて海陸運輸業・中谷組を創業してから100有余年。世紀を超える中谷グループの歴史は、日本におけるグローバル物流の歴史と呼応するように、いまも連綿と続いています。私たちの根底にあるのは、創業者が掲げた『和と誠実』の精神を基にお客様のニーズにお応えする姿勢と、真摯な「人間力」で技術を探求するチャレンジスピリット。中谷機工はこれまで、重電機器や大型電子機器の重量物輸送・搬入・据え付けで積み重ねてきた実績をもとに、半導体・液晶などの超精密機器をはじめ、医療機器、昇降機、産業機器などの幅広い分野にも進出しています。今後はさらに付加価値の高いサービスを提供できるよう創意工夫をし、先進の物流・エンジニアリングカンパニーへと進化をつづけ、日本が誇る「真のプロフェッショナル集団」をめざし社会に貢献してまいります。
また、我が社は人が宝です。社員の幸福を追求することによって「会社や仕事も大事にしていこう」「お客様にも良い仕事をしていこう」という思いが育まれてくると信じています。当社には親子二代三代で働いている社員もたくさん所属していますが、これからも社員の皆さんが喜び、安心して働くことのできる会社づくり、和を体現した社風を大切に受け継いでいくことに力を入れたいと考えます。
つぎの100年に向かって、私たちは一人ひとりがお客様のニーズに応える「創意工夫」を根本にそれぞれの現場と向き合いながら、ものづくり、海外進出にも力を入れ、時代のニーズに即応できる先進のエンジニアリングカンパニーとして、新たな価値を創造してまいります。

「やま庄」から未来へ ──。

中谷関連会社が使用していた山形に「庄」の字をあしらった社章は創業者中谷庄之助自身が制定したもので、大正初年には既に用いられていました。それは代々庄屋を務めていた中谷家の古くからの標章に由来します。紺地に白く塗り染め抜かれた半てんは中谷の信用の印で、社員が質屋に持っていけばそれだけで金を貸してくれたと言います。明治・大正・昭和・平成と1世紀以上にわたって引き継いできた社章は新たなロゴマーク「ハーモニーリング」へと受け継がれ、中谷の伝統と無限の可能性への願いを託されています。



NEXT 11
100年品質の技と知恵を次へつなぐ！

自分たちの手掛けた仕事が社会を動かしている。

極めて短時間での作業が求められる。現場はどこも一般の人が出入りするような場所ではない。地下鉄の駅間、原子力発電所、あの日本で一番の高さを誇る黒部ダムの水力発電所の復旧工事の一部も中谷機工が手掛けた。それぞれのプロジェクトを完璧するためには「搬送」、「組み立て」、「設置」。そしてそれらの工程を確実にやり通すための緻密な「プラン」が求められるのだ。「自分が携わった現場はすべて覚えています。仕事をした現場のそばを通ると、その時の仲間や苦労を思い出します。その時の奮闘が今も社会の役に立っていると思うと、やっぱりうれしいですね。外からは見えない仕事ですけど、自分たちは知っているし、それでいい」と当時の社員は語る。時代は変わり、電力を取りまく設備や技術も日進月歩で変わっている。しかし専門家としての責任感と誇りは変わることなく、これからも続いていく。

社会になくてはならない電力。
鍵となる受変電機器を設置する。

私たちの社会、そして暮らしを支え続けてきた電力。この社会になくてはならない電力の普及にも、これまで中谷機工は長きにわたり貢献してきた。高度成長期が続く昭和40年代の日本。大阪では梅田、道頓堀をはじめとする繁華街に送電線が張り巡らされ、電力需要は止まることなく高まっていった。繁華街やオフィス街の興隆にともない交通の要となる地下鉄の延伸工事もピークに。地下では現在も大阪の人々の主要な足となっている『地下鉄四ツ橋線』の工事も夜ごと続いていた。「地下7〜8mに受変電機器を降ろしていくんですけど、クレーンが使えないような狭い現場は、チェーンを使って手で下ろしていく。受変電機器は大きいので、地上でバラしておいて、地下で組み立てる。当時はそんなことを毎晩やってましたね」。発電所でつくられた高圧の電気を一般家庭に送り届けるためには、電気を降圧する『受変電機器』が不可欠。地上で、また地下でも。需要と呼応するように毎日行われる受変電機器の運搬と据え付けの奮闘が、現在も続く中谷機工のコア事業になった。受変電機器の設置には数々の難関がある。まず、各地域から集まった部品を組み上げて、性能試験を行う。試験にクリアした製品は、搬送するため部品ごとに分解する。輸送中には製品の損害を防止するため、常に加速度と振動を制限しながら走行しなければならない。

「搬送」、「組み立て」、「設置」。
すべてを見通す緻密な「プラン」。

いざ現場に到着して部品を組み上げるときには、重機が使えない事態も起こりうる。また時間の制限もある。地下鉄などの工事では電車が動いていない、終電の運行終了後から始発までという、

NEED

それは必要

社会には、それがなくてはならないものがある。
暮らしを支える電力もその一つだ。中谷機工はこれまで、
社会を、そして暮らしを守るために不可欠となる
電力インフラにおいて数々の実績を築いてきた。
それは普段の暮らしで私たちが気にもとめない
ひとつの機器として、あるいは目にすることもないような
場所で働き続ける設備として、
私たちの当たり前の毎日を支えている。



受変電機器の
現場据付

重機が使えない所・時間制限があり短時間で作業が求められる現場でも搬送・組み立て・設置が連携する緻密な計画で作業を行います。



受変電機器の
工場内組み立て

製品開発工場で組み立ての段階から参加し、もっとも設置しやすい工法を提案。レッカーレス工法により、停電することなく設置できます。



独自技術で
エスカレーターを設置

商業施設や駅などにエスカレーターを設置。エスカレーター設置には、独自開発した「トラス・イン・トラス工法」を採用し、工期とコストを圧縮しています。(特許取得済)

NEWS

それは話題

人々が待ち望んだものが実現する。
あるいは想像もしていなかったことが現実となった時、
そこに話題が生まれる。中谷機工の仕事は、
時に人々の話題になることがある。あるいは、
人々に感動や興奮を届けるそばに存在することもある。
リビングで観るテレビで、あるいは街角やアミューズメント施設で。
あなたが見ているニュースや話題の裏に、
中谷機工の仕事があるかもしれない。



『海遊館』
イトマキエイの搬送
緻密な計画と輸送技術で、世界的にもあまり例を見ない大型生体輸送を行います。



『名古屋ドーム』の
オーロラビジョン
オーロラビジョンは、高い技術と経験で組み立て・稼働させることができます。

無理難題と思われた生物の運搬。ロマンを求めてミッションクリア。

ジンベエザメが上陸する。1990(平成2)年、大阪はもちろん、日本中が沸いた水族館『海遊館』のオープンの目玉は、4mを超えるジンベエザメ。アクリルガラスの水槽に巨体が沈む瞬間、搬入を見守る全員が固唾をのんだ。日本全国のお茶の間に映し出された「ジンベエザメ搬入」のニュース画面の中で、最前線に立っていたのは中谷機工の輸送チームだった。当時、ジンベエザメを飼育していたのは世界中でただ一ヵ所、沖縄海洋博記念水族館(現在:沖縄美ら海水族館)のみ。沖縄から大阪まで、どうやってジンベエザメを運ぶのか、前代未聞の挑戦は計画だけで1年半の歳月を要した。大型船にプールを載せて移動するには1カ月もかかる。最終手段として残ったのは、6mの輸送用水槽に入ったジンベエザメをトラックに積み、車体ごとフェリーに乗せて、再びトラックで陸路を走ること。輸送中にジンベエザメが輸送用水槽の壁にぶつかることが許されない高度な輸送が、それまで受変電機器など大型の精密機器の輸送を担ってきた中谷機工に託された。「いつもは機械とか無機質なものを運んでいるから、生き物を扱うのはロマンを感じました。ジンベエザメを輸送用水槽から海遊館の大水槽に移したら、一度底まで沈んだんです。ダメか…と思ったらそのうち泳ぎ出してね。みんな拍手喝采ですよ」。近年では、大分県のワニ園からイリエワニを大阪の『NIFREL(ニフレル)』に運び、また高知県から『海遊館』までイトマキエイを運び、ニュースと共に人々に笑顔を届けている。



人々が見つめる注目の舞台。その陰には中谷の確かな仕事。

中谷機工が手掛ける仕事は、たびたび日本中のニュースの的となる。たとえば大規模商業ビルや競馬場、競艇場などにある大型映像装置なども数多く設置し、その時、その場所で人々の注目と関心を集めてきた。最近では名古屋ドームの大型ビジョンも中谷機工が手掛けている。水上レースが行われる競艇場では、水の上でどうやって機材や装置を渡し設置するか、水上ルートから企画・提案した。競馬場の大型ビジョンでは、搬入時に少しでも金属のカケラが落ちていたら、馬がケガをしてしまう。芝生も傷めてはいけないので、パドック全面に畳を敷いて重機を入れた。手掛けた場所は、阪神競馬場をはじめ京都競馬場、尼崎競艇場、さらにはマツダスタジアム、阪神甲子園球場、日本武道館など挙げればきりがない。24時間テレビや紅白歌合戦などの舞台に使われる大型ビジョンも設置してきた。「話題になったり注目されるのは確かにうれしいですけど、やはり現場ごとに違う難しい工事をやり遂げられたということの方がうれしいです」。アミューズメント施設で、スタジアムで、そして街角で。人々の話題の舞台裏に、中谷機工の確かな仕事がある。

ニュースになることよりも、その仕事を完璧できたことが、一番うれしい。



クリーンルーム作業
半導体・液晶製造装置など
クリーンな環境が要求される
場所において、無塵状態で
梱包・搬入・据え付けする技
術を提供します。



リニアック組み立て作業
医療機器全般への知識と
1000分の0.2mmという精
度で組み立て・設置する技
術があります。

どんな最新の機器も、組み立てないと機能しないところに使命感が生まれる。

NOW

それは最先端

これまでの歩みのなかで、中谷機工は常に時代の最先端に
関わってきた。ある時代は電力インフラの世界で。
またある時代は人々が熱狂するアミューズメント施設で。
そして今、最先端のなかの最先端と呼ばれる
医療や科学の世界でも、中谷機工が培ってきた
運搬・搬入・組み立ての技術が活かされている。
時代が変わり、運び、組み立てるものが変わっても、
そこに流れる中谷スピリットは不変だ。

「運ぶ・組み立てる・設置する」。積年の技術が何万人もの命を守る。

1980(昭和55)年、大手電機メーカーが製造を始めた放射線治療機の搬送と設置を皮切りに、中谷機工はCTやMRIといった検査装置や診断機の設置を開始。平成になると国内のみならず海外製の医療機器の設置を本格化。放射線学科を構える大学、病院、がんセンター、クリニックや動物病院などでも中谷機工の搬送・設置技術が発揮された。一番遠い医療機器の設置場所は、地球の裏側、アルゼンチンにまで及ぶ。医療機器の中でも、特に治療器設置は群を抜いて難しい。少しでも設置場所がずれると患部を正確に治療できないため、1000分の0.2mmクラスの精度が必要だからだ。超高精度の設置のため、時には土木工事・配管工事まで行う場合もある。さらに、がん治療に使用されるX線の3倍の威力をもつといわれる重粒子線、その普及にもパイオニアとして取り組み、世界初の重粒子線治療専用装置『HIMAC』の据え付けを担った。この第一号機据え付けは、重粒子線の研究・臨床応用における日本の国際的な地位を確立したとして国から表彰されている。当時はまだまだ先進的だった重粒子線治療装置は、切らずに治せる治療として日本におけるがん治療の発展に大きく寄与し、2003(平成15)年には国の先進医療として認められ、これまで1万人にのぼる人々のがんを治療してきた。「運ぶ・組み立てる・設置する」その技術なくしては、どんな最先端の発明や製品も活かされることはなかった。



「やってみたい」、「やり遂げたい」。そんな執念が世界を驚嘆させる。

兵庫県・播磨科学公園都市の上空写真には、見慣れない大きなリングが映る。世界中の科学者たちが関心を寄せる大型実験施設『SPring-8』だ。周長は約1.5km、この巨大なリングの中で生み出される電磁波は「放射光」と呼ばれ、たとえば物質の構造を原子・電子レベルで解析することが可能だ。この「放射光」を生み出す機器の搬入と設置工事を託されたのが中谷機工だ。「世界を見渡しても類のない最新鋭の研究施設です。やってみたい、やり遂げたいと関係者の皆が思っていました」。1997(平成9)年に運用が開始されると同時に世界を驚嘆させた『SPring-8』、この開発事業を達成させたのは、それまで先端医療分野において1000分の0.2mmクラスという精度へ挑戦し続けた実績と、難題に挑む技術者としての矜持であった。『SPring-8』は今、国内企業や大学をはじめとする多くの研究開発機関に寄与し、分野を超えた構造解析のイノベーションを次々と起こしている。

NETWORK

それは連携

たとえばメーカーが求めている一つの部品をつくるために、
海外の生産ネットワークを活用する。それはハイクオリティ&
ローブライスというコストパフォーマンスをとことん追求するために。
あるいは搬送・搬入・組み立てプロジェクトにおいて、
その技術を必要とする国のもとへと向かう。ものづくりの過程で、
また積み上げてきた技術を世界へ手渡すために。
中谷機工の連携はすでに海外へと広がっている。

ほかでは手に負えない。
困った、来てくれれば、と言われれば、
世界のどこへでもいきますよ。

顧客ニーズに寄り添いながら、信頼されるパートナーとして歩む。

中谷機工の福山支店と赤穂支店は、大手電機メーカーの工場敷地内で物流業務を担っている。とりわけ福山支店はパートナーとして80年近い歴史を歩み、現在は約140名のスタッフが従事。顧客ニーズに合わせ、「貨物自動車運送事業」「一般建設業」「倉庫業」「保税蔵置場」など各種認可を取得しながら、工場密着型の利を生かし、軽快なフットワークで迅速な対応を行っている。2017(平成29)年5月には近隣へ約700坪の新倉庫を建設し、利便性と顧客満足度の向上を目的に資材の保管・入出庫・運搬などの倉庫業を開始。包装設計、情報システムといったエンジニアリング業務も福山支店専属スタッフがラインスタッフと一緒になって開発から保守まで幅広く対応。特に物流システム・輸送梱包の作業効率向上に対してノウハウを生かした総合的な運用を実現している。古くは万葉集にも詠まれた風光明媚なロケーションに位置し、まわりに広がる美しい景色、環境を守ろうという意識を体現するかのように、福山支店では『環境サービス係』も設置。メーカーから出された廃材などを回収分別し、循環型社会に貢献しているのも特長だ。

モノづくりも、搬入も。世界を照準に難題を解決する。

妥協が許されない製造現場にあって、コストパフォーマンスをさらに高めるために、国外にも製造ネットワークを広げ、中国・大連にある2社(大連庄栄電器、大連庄盈電器)を管理運営、生産委託。電器部品の輸出から組み立て加工、完成品を輸出して客先まで届けるサービスを提供する。そして今や中谷機工のネットワークは製造はもとより、輸送・搬入・設置のプロジェクトにおいてもアジアを超えて世界に広がっている。これまで、イギリス・ドイツ・アメリカ・インド・アルゼンチンにて、病院やがんセンターへ放射線治療用装置を搬入してきた。香港や中国など、近年急速な発展を遂げた都市は、まさに高度成長期を控えた日本と同じく、より多くの電力を必要としているのだ。急激に高まる都市の電力需要に呼応して、受変電機器のニーズも高まり、現地で設置の指導に呼ばれたのも当社の社員だった。政府開発援助(ODA)の案件も多く、発展途上の中南米へ一人で出向き超精密機器を設置することもある。「どんな依頼が来ても不可能ではない、と思えるのは、これまでどんなに高難度のミッションも完遂してきたからです。私たちは、誰も成し遂げたことのない難題を解決することを、今も楽しみにしています」。中谷機工の連携と挑戦は、さらに世界へ。



2017(平成29)年5月に
約700坪の新涯倉庫を建設
福山支店では顧客満足度向上、ジャストインタイムの納入を目的に約700坪の新涯倉庫の運用を開始。



海外で電器部品の輸出、組み立て加工
中国大連において、電器部品の輸出から組み立て加工、完成品を輸出して客先まで届けるサービスを提供。



可能性を生み出す、技術力と団結力。



座学研修
技術研修をはじめ、社内コンプライアンスの徹底、安全意識の醸成などの研修を行っています。



MRI搬入デモンストレーション
高度な搬入・設置技術が求められる現場を想定し、実機を用いてデモンストレーションを重ねています。

継承される中谷機工の技術・技能。何より、スピリットを伝えたい。

中谷機工の資産は"人"である。これまでも、これからも不変であるその信条を次へと繋いでいくために、人材育成を目的とした研修センターも開設。中谷機工が携わる仕事は、特殊な場所での作業が多い。ある時は水上や地下で、ある時は研究所や病院で。とりわけ難易度が高い医療機器の設置は病院での作業となるためOJTも難しい。そこで、専門的な技術継承を目的に、MRIなど実機でのOff-JTをスタート。研修センターの根幹は「人」と「安全」。人材を育成し、安全意識を醸成する。研修や訓練を通して、創業以来育まれてきた中谷機工の技能、技術、そしてスピリットを伝えることを目的としている。ひとつのプロジェクトには、電気工事、



溶接、危険物取扱や足場組み立て、クレーン操縦などたくさんの有資格者が介在する。また、ひとつのプロジェクトを担うには、資格と同様に、安全への意識も不可欠である。中谷機工では「安全」のために、この十年来「安全確立セミナー」を開催し、事故を起こさないよう細心の注意を払ってきた。一方で、予測不可能な現場での得手不得手をなくし、創意工夫を働かせて、いつどこでも難題を解決できる人材の養成も企業の成長を図るうえで外せない。一朝一夕で身につかない経験を積み、全員がベースとなるスキルを蓄え、組織のボトムアップを図っていく。

これから100年先まで、信用・信頼される会社であるために。

指導者は、現場での厳しい修練と経験を積んだベテランたちだ。彼らから学べるのは「優れた技術」だけではない。それ以上に大切なものは「優れた心得」。「心得の要素は、マインド、ハート、スピリット、パーソナリティーです。これらを会得するために必要なのは、良き『師匠』を見つけること」と説くのは、社長の中谷憲正。世の中のさまざまな分野で一流のプロフェッショナルと呼ばれ、活躍する人々は、若い時代に目標とする師匠に巡り会い、薫陶を受け、多くの智慧や技術を学んできた。その師匠は、身近にいる先輩のうちの一人かもしれない。「身近に師となるべき人を自分の師と思い定めて学ぶ姿勢が『成長』の糧となる」と社長は若手社員に伝える。

研修センターで、若手社員は中谷機工で数々の歴史を刻んできたベテランたちから豊かな知見を継承しながら、「和と誠実」を体現してきたベテランと共に、人間成長という道程を進む。「社員の『和』をもって、お客さまに対し謙虚な姿勢で『誠実』な仕事を行い、末永く信用・信頼される会社であろう」という創業者の言葉は、現場で、そして教育の場で今も生きている。



NEXT

それは可能性

100年を超える中谷機工の歴史に脈々と受け継がれてきた創業のスピリット。
時代が変わり、私たちが手掛ける製品が変わっても、
「お客さまのために挑戦する」とスピリットは不変だ。
そのために、「和と誠実」を根本に
これからも団結力で私たちは進んでいきたい。
これからもベテラン社員たちから受け継がれる技術や精神、
その先にある可能性を私たちは信じている。

中谷の理念、それは、
『「和と誠実」の心で社会の安寧と発展に貢献し、社員の幸福を実現する』

この理念は、私の「志」といえるものであり、人生をかけて登り続ける山です。
「志」とは、与えられた人生において
己のためだけでなく、多くの人々のために
そして、世の中のために、大切な何かを成し遂げようとの決意

この人生をかけて登る山道を、あなたと共に登りたい。
成長し続ける人生をともに歩みたい。
それが、私の願いであり、覚悟です。

創業1902（明治35）年から中谷グループは幾多の時代の変遷を乗り越えて、一世紀を超える歴史を積み重ねてまいりました。それは「志」を守り続ける歩みであるとともに、時代の要請に弛みなく応え続けてきた自己変革の歩みでもあります。

中谷機工は、今後さらに付加価値の高い仕事にチャレンジし、社会やお客様の期待にしっかりと応えていかなくてはなりません。そして、私たちがめざすべきものは、『真のプロフェッショナル集団』として、日本一の技術者集団・職人集団の確立です。そのために、社員の教育に一層力を注ぎ、人を育て、人を何より大切にする会社へと成長させたい。

2017（平成29）年、『中谷機工研修センター』を設立させたのもそのためであり、技術・技能だけでなく、「心・技・体」を充実させた人材の育成が、企業の永続的発展につながると考えています。

当社には今なお、親子二代・三代で働いてくれている社員がたくさんいます。今後も社員が安心して働くことのできる会社、和を体現した社風をしっかりと継承し、未来へ繋いでまいります。

創業から大切にしている『社員の「和」をもって、お客様に「誠実な」仕事を行い、末長く信用・信頼される会社であろう』という経営姿勢を、私自身の生き様とし、社員の皆さんと心ひとつに、人間成長という山道を登り続けたい。
その道は、必ず素晴らしい山の頂に続いているから。



中谷機工株式会社
代表取締役社長
中谷嘉正

次は、あなたと。

nakatani

